

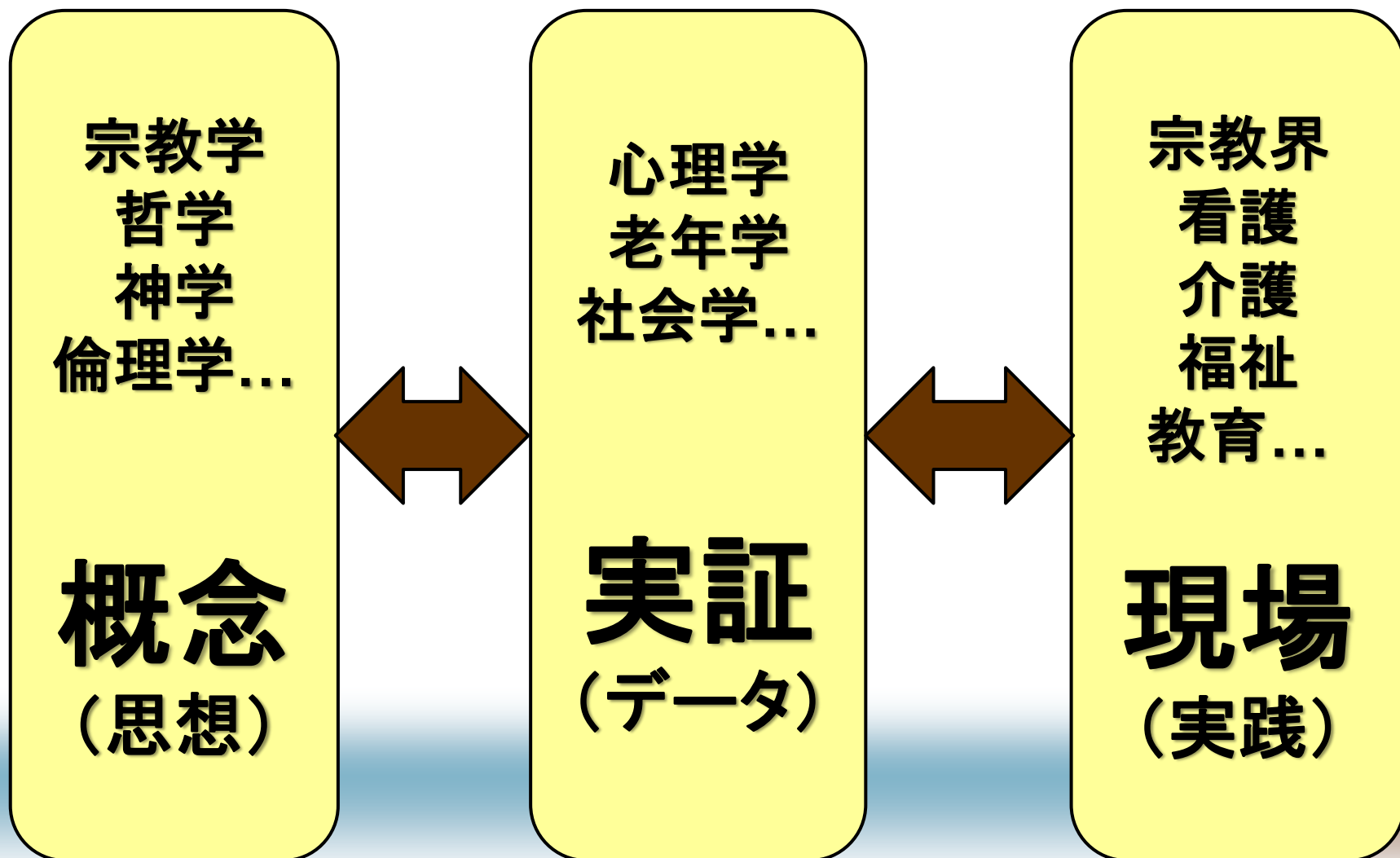
# 宗教心理学的研究の展開(18)

— 宗教, スピリチュアリティを追究するための「新たな連携・協働」の試み —

企画・司会: 松島公望(東京大学)

日本心理学会第85回大会  
公募シンポジウム

# 捉えることが困難である宗教, スピリチュアリティを 追究していくための「**新たな連携・協働**」の提案



心理学  
老年学  
社会学...

**実証**  
(データ)

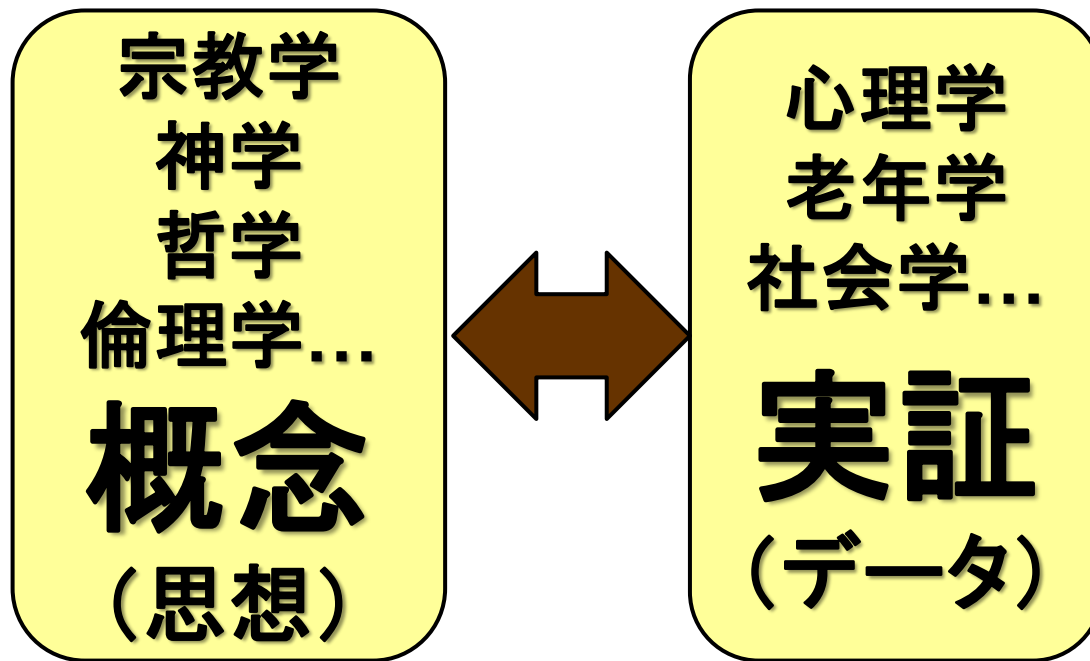
心理学も宗教学，哲学等の  
人文科学分野と同様に「(構  
成)概念」を検討するが、常  
にそこには調査、実験を行う  
ことを前提に検討することか  
ら、その検討が「調査、実験  
ができる範囲での構成概念」  
となっ~~て~~しまい、**どうしてもそ  
の捉え方が浅くなってしまう。**

しかし、「宗教」「宗教性」「スピリチュアリティ」は当たり前前であるが、そんな浅いものではなく、深遠でつかみどころのないものである。

宗教学  
神学  
哲学  
倫理学...

概念  
(思想)

- ◆ その深遠でつかみどころのないものに対して**深く深く考察し、明らかにしていく分野**が、宗教学、神学、哲学、倫理学等の**人文科学分野**であると思われる。
- ◆ 人文科学分野によって丁寧に「概念」を検討することにより、「宗教」「宗教性」「スピリチュアリティ」がより**立体的に見えてくる**。



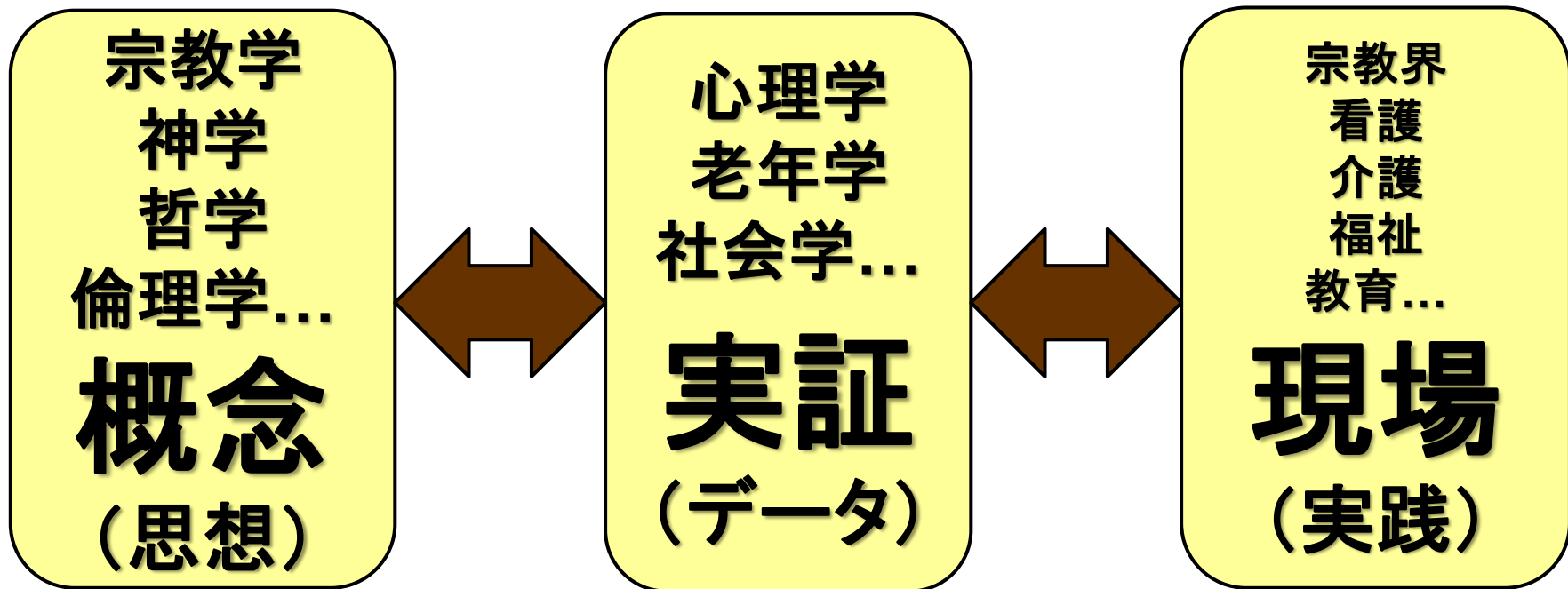
- ◆ その作業の中から「実証(データ)」を担う心理学、老年学、社会学等の**社会科学分野**がそれらをもとに調査、実験を行い、**データから見えてくる現象を明らかにしていく。**
- ◆ そこには「概念」だけでは見えなかった「データ」から見た(今そこに生きる人のデータから見た)**新たな現象を捉えることができる**ように思われる。

しかし、それだけにとどまってはいけない。「概念(思想)」と「実証(データ)」から見えてきた現象をいかに現場にいる人びとに伝えて、その現場に還元・貢献ができるのかが重要になる。

宗教界  
看護  
介護  
福祉  
教育...

現場  
(実践)

- ◆そこには、宗教界、看護、介護、福祉、教育といった**実践現場**を想定している。
- ◆「現場に生きる人びと」と「概念(思想)」と「実証(データ)」から見えてきた現象とを突き合わせることによって、より人びとの日々の生活に根ざしたものを見いだしていく形を構築していきたい。



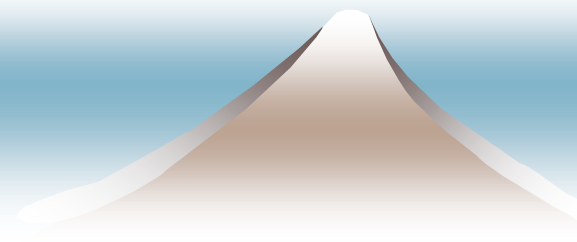
「現場(実践)」から、日々の生活の中で見たもの・感じたものを通して、いかに「宗教」「宗教性」「スピリチュアリティ」が自分たちの身近に存在しているのかをしっかりと捉えることにより、「概念(思想)」「実証(データ)」と接合していく。



- ◆ そこで「共通すること」や「異なること」や、時に「乖離していること」を明らかにしていくことにより、「宗教」「宗教性」「スピリチュアリティ」を多角的に捉えていく。
- ◆ 「現場(実践)」だからこそ見えてくるものが多々あることを思う時に、それらはそのまま「概念(思想)」「実証(データ)」に還元していくものになる。



このように「**概念(思想)**」⇔「**実証(データ)**」⇔「**現場(実践)**」が行き来することにより、捉えることが困難である「**宗教**」「**宗教性**」「**スピリチュアリティ**」に今まで以上に接近していく形を作っていきたいと考えている。



# 【シンポジウムの構成】

## 【話題提供】

1. 宗教学と心理学の連携に際しての問題とその解決策：**宗教学【概念（思想）】との連携・協働**

藤井修平（東京家政大学）

2. 超高齢社会において宗教心理学が取り組むことのできる新たな連携と協働－老年学・老年心理学から－：**老年学・老年心理学【実証（データ）】との連携・協働**

大橋 明（鈴鹿医療科学大学）

### 3. 小学校の現場からみる宗教心理学との 新たな連携・協働：**小学校現場【現場（実践）】との連携・協働**

西脇 良（南山大学）

### 4. 「新たな連携・協働」を試みる際に注意 すべきことー**自文化中心主義**から考えるー

ムスリン・イーリヤ（立教大学）

### 【指定討論】

Masami Takahashi（イリノイ州立ノースイ  
ースタン大学）

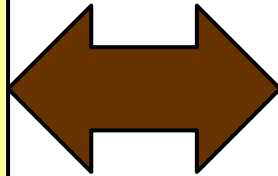
# 最後に...

日本における実証的宗教心理学は決して活発ではなく、永く沈滞していた。その理由は様々であるが、心理学者の立場から見てみると...

- ◆ 宗教、スピリチュアリティに興味がない。
- ◆ 宗教、スピリチュアリティに興味はあったが、**どのように調査研究をすればよいのかがわからず、結局、研究はしなかった。**
- ◆ 自分の専門分野で研究を進めていく過程で宗教、スピリチュアリティに遭遇したのだが、**どのような調査研究をすればよいのかがわからず、宗教、スピリチュアリティを扱うことを断念した。**

宗教、スピリ  
チュアリティ

個別性が強い



心理学

普遍化・一般化・平  
均化を追究する

- ◆ 「宗教、スピリチュアリティが有する特性」と「心理学が有する特性」とは相容れない面が多い。
- ◆ それゆえに、心理学で宗教、スピリチュアリティを扱おうとしても**適当な研究方法を見つけることができない**。
- ◆ そのため、多くの心理学者が宗教、スピリチュアリティを扱うことをやめてしまう。
- ◆ このような形で実証的宗教心理学は沈滞し続けるのである。**私たちはこの悪循環を断ち切りたいのである。**

- ◆この悪循環を断ち切る方策こそ、『**新たな連携・協働**』である。
- ◆心理学者だけでは乗り越えることが難しい“**宗教、スピリチュアリティ**”と“**心理学**”とを隔てている壁を「**概念(思想)**」「**現場(実践)**」との『**新たな連携・協働**』によって乗り越えていきたいと考えている。
- ◆本シンポジウムにて、『**新たな連携・協働**』における具体的な提案(話題提供、指定討論)を行いたい。